

原発ゼロと俳句

—ホビの予言って「」存知ですか？—

〔麗〕松澤昭卷頭の句に

かげろうてあんたらどこで愛々す

かげろうてわびさびしをり出てきたる

半ばに「雲海におしやべりしたくなってゐる」

さらに「たそがるる八ツ手の花のあればこそ」で句集の巻を閉じる。

「いいなアー」と思う。「侘び・寂・撓^{しな}り」を忌憚なく語れた良き時代、よき風土だったと思う。句風も伸びのびとしく、たくつるぎ、作者の人格と共に詩景が自在に語られる。自然雲海、八ツ手の花といった天・地・植物と懸念なく和合する。数十年前、「ホビの予言」というドキュメンタリーがお目

↑

活動やっていると校長になれんヨ」と皮肉られたこともある。
(以前高校教師だった)

ともあれ核^クはいけない!!の不安、一途さがあつた

俳句と自然 人間――

俳句には「歳時記」がある。俳人にとって季節、木々、花々、山、河、海、人間はかけがいのない友であり、生命であり、愛である。

二〇十二年八月半ば、脱原發のゼロの日本では珍らしいデモ、群衆の訴えが東京とくに首相官邸前行われた。

その後、大江健三郎をはじめとする脱原発の文化人、著名な評論家が、「二〇から四〇年の間に脱原発を政治は判断するように」といった結論を公表した。冗談ではない、即時

「ゼロ」が九割の人々の祈願である。甘い判断。庶民の真の願いとは異なる政・官・財を利する。現政府、企業と同方向でしかない。即時「ゼロでなくては」。

俳人であれば納得していただけたらよい。

長年、「核」「原発」、「環境破壊」「農業」「食品添加物」…等の調査をして来た身には、一基の稼動がいかに海水、空気植物、人間を微量ながらも汚染しつつあったか。

現未来は、太平洋岸を襲う巨大地震（南海トラフ）も想定されている。

大星 光史



見えた事がある。筆者も隣市の主婦連の自主映画で拝見した。アメリカのインディアンの子供が伝へる古くからの伝言で、後世、「白い人」いわゆる白人が土地を制圧、母なる大地を掘り起し、ウラン鉱を乱費する時、人間は滅びると。原爆の広島・長崎、チェルノブイリ、福島原発事故を想起してもらえば明白である。ホビ族の地の白人や土着のインディアンは労働者たちは奇病、ガン、白血病に罹り、近辺の妊婦は難産、奇型の子を生んだ。児童、成人も奇怪な病気に長年、苦しみ抜いた。

筆者が脱原発・公害問題に踏み切ったのはこの映画の直後からである。それ以前から世界の核実験には身体的に反応するものがあつた。特異体質として自著（栄光出版社）にも記した点である。当時N市の商工会議所のトップから「そんな

俳人、一般人も含めて自然こそ詩・句の母胎である。これを危険な物質で泥まみれとし親しむことのできぬものへと変貌されては堪ったものではない。付着しているだけでも詩心が半減する。

最も自然と密着した俳人、それなくしては常にその内に身を置かざるを得ない俳人にして声を大にせねばなるまいし、その資格、資質を大切にしたいものである。

著名な文化人・評論家は妥協点を見出し、悠長だと思ふ。自然と共にある俳人、『歳時記』を聖書・仏典とも親しむ俳人こそ声を上げるべきではあるまいか。

—「もう一つの予言」—

友人の一人に神秘大好き人物が居る。

五月、世界的シャーマンに招かれ二週間ばかりエジプトを訪問した。数十ヶ国の神秘愛好家の中で代表の女性シャーマンが世界的大災害と予告している。友人によれば涙を流しながら「とくに日本が大変」と、深い悲しみの心で語ったという。その後、太平洋岸を襲う三十二万人に及ぶ死者の予測が新聞・テレビを賑わしたのはご承知の通りである。

筆者は科学、実証主義に身を置く人間でもある。別途の試算によれば三十二万人では済まないともいう。

る。一基でも浸水、事故、破壊があれば今後の日本は終焉であらう。おそらく、数十基に及ぶ可能性はある。

福島除染もま、ならず、中間貯蔵施設、廃棄物いずれも各県で嫌悪し、事実、危険でもあるが、今後、何万年単位で放射能禍が予測される貯蔵タンクを国有林においてでさへ皆さんノーと拒否している。

現在の原發をいかにすべきか、この方向に科学の知恵を集中すべきである。電気料金等の値上げ、経済以前の生命の問題、未來へのツケを先ず片付けねば――。廢墟、これが日本の未來図である。即刻ゼロ。即クリーンエネルギーへの發足の十分できる予測はある。まず最も身近かな俳句、俳人からその論を説きたい。スタートしたい。それが現在まで俳句、四季、花鳥諷詠に親しんできた日本人、俳人の宿命というべきであらうか。

「電話のダイヤルどこを廻しても平和でいい雑賀茄子王」
戦後の作者の詠である。

—世相と民意—

俳句人口は川柳と並んでその数は極めて多い。しかも常識人、ある意味で古典、美的感覚、四季自然にも親しめる貴重な存在であるともいえる。

TPP、原発、自然災害この度の選挙で議題となることが多いが、**気対策、消費税、年金、少子化対策……と、現今ほど厳しい世相は無い。どの一つ取っても俳人としての意見が沸き立つてもよい。**

文人、俳人とはその点、全く無力なのか？成程、5・7
5の超短詩型では無季、口語の自由性を主張せざるを得な
った京大俳壇も充分、理由があったといえる。

原発の稼働はそれだけで放射能を大地、動植物、海水、大気に残しながら撒き散らしてしまう。十年二十年の稼働内での不測の事故は想定可能と断言さえ出来る。地震、落雷、テロ、不測の事故……。限りなく怖い。

(二〇十二年十二月十四日記)

尖閣諸島を巡つての中国とのきくしやく問題。一歩誤まれば戦火、死者、戦争も生じかねない。一触即発的それぞれの奇妙な愛国主義。浅はかだつた悔んでみても取り戻しがつかない。精神的、金銭的にはケタ外れの損失を両国ともに蒙っている。この上、更なるリスクを重ねる。

実は友好の内に自然解決の時期が生じた筈である。それがこの二十一世紀の時代性であった。その園内に居た人々、自然風土をこよなく愛し、風雅に生きた文学者なんかなく俳人の役目だったのではないか。俳句の短詩型からの発言は無力か。黙して戦火を甘んじて受け容れるか。俳人の帰趨が問われる時代にもさしかかっているさえいえる。

